

鹿島郡龍門寺に傳へるこの寺の文書に三井村
興徳寺とあるから、この村の前身が三井村で、
三井郷の本郷であつたことが知られる。

コウトクジ 興徳寺 鳳至郡興徳寺に在つた寺院。能登名跡志に、『此寺鳳至郡三井の郷に在りて、梅山和尚の開基、總持寺近門の禪宗なりしに云々、則今其處を興徳寺村といへり。其時の什寶とて、梅山和尚へ龍神の捧げし滿珠干珠の玉・唐織の袈裟とて、當所(七尾)禪宗龍門寺にあつて、則今惣持寺近門の寺也。』と見える。この興徳寺が今の七尾、向宗西派光徳寺となつたとの説は全く誤である。→リニューモンジ 龍門寺。

コウトクジヨウ 興徳寺城 ↓ヒメノジヨウ 姫の城。

コウナイハタ 高内島 鳳至郡本江(今本木)内の小字。

コウナミ 高波 珠洲郡三崎郷に屬する部落。村名由来書に、『此村元和三年三崎野之内新開仕、村立出来、高波村と唱申由申傳候。』とある。

コウナミザキ 高波岬 珠洲郡の東北端で、一に宿岬ともいふ。沙嘴海に出ること二〇〇米餘。

コウニユウ 小鷲入 ↓コノ 鳳至郡小池内の小字。

コウネンジ 光念寺 羽咋郡末吉に在つて、眞宗東派に屬する。

コウノ 江野 羽咋郡堀松庄に屬する部落。寛文三年の新聞といふ。

コウノスザン 鶴巢山 鳳至郡に在る。高巢山にも高洲山にも作る。又輪島嶽・大野嶽の別稱もあり、地方人は單に嶽といふ。郡中

第一の高峰で、高さ五六七米、地質輝石安山岩。毎年五月八日嶽行きと稱して登山する者がある。絶頂に薬師堂があり、山毛櫛・槻等が繁茂する。能登名跡志に、『輪島より東に當て大野嶽とて近郷の高山あり。輪島より登り二里に在り。半途に大野村あり。別當高泉寺とてあり。本尊高洲薬師とて像あり。御前は村より一里あり。五社権現の社あり。云々。總じて今高洲山といへども實は高洲山也。洲と淵との誤り也。夫木抄などにある中納言家持卿の歌に、狩人の來ぬ日もありて高洲の山の雉子はのどけからまし。』と見え、

また同書に『絶頂は近國を見おろし絶景なり。社の脇に大木の杉あり。別當高泉寺は眞言宗にて、元は八坊ありしとて、寺跡そのまゝあり。』ともある。こゝに高泉寺といふは高清寺の誤であり、高洲山を高洲山とするものも却つて誤である。

コウノスンジヤ 高洲神社 鳳至郡大野(今西大野)高洲山に在る。式内等舊社記に、『高洲山に五社権現社ありて、祭る所少彦命なり。神主は水上氏にて大野村に居住す。』と見える。社藏に木造聖觀音高六九櫃のものがあ

るが、その頭部のみ鎌倉時代の作で、他はすべて後補である。

コウノスノタキ かうのすの瀧 鳳至郡井守上坂にある。高さ七〇米許。附近巨岩相擁して洞窟をなす所に、多く蟬蟻が住する。

コウノスヤクシ 高洲薬師 ↓コウセイジ 高清寺。

コウハ 江波 ↓ウメダコウハ 梅田江波。

コウハイデン 荒廢田 ↓ホウデン 封田。
コウハガツシユウ 江波合集 一冊。道之記・座右草紙・熊翁院陀袋の傳文三編を集めたもの。道之記は翠葉江波が天保十四年磨彌・可申と共に宰府に赴いたことを記し、座右草紙はその作つた序跋及び俳句である。最後のものは文政七年江波の父年風の文で、芭蕉が奥の細道の歸途、金澤の小春の許に残した頭陀袋が翠葉の家の什物になつてゐたのを、寶曆の大火に焼いた記事である。

コウフウ 香風 ↓ウメトコウフウ 梅本香風。

コウフクイン 洪福院 加賀藩主第十二代前田齊廣の女珍姫の法號。詳しくは洪福院文山妙徳大姉。

コウフクジ 光福寺 金澤彦三町に在つて、一向宗西派に屬する。初め五寶町に在つたが、明治廿四年今の地に轉じた。

コウフクジ 光福寺 羽咋郡千田に在つて、眞宗東派に屬する。

コウフクジ 廣福寺 鳳至郡矢波に在つて、曹洞宗に屬する。永徳三年殊廢之を上町に開創したといふ。

コウフクジ 高福寺 珠洲郡小路に在つて、眞宗東派に屬する。

コウフクジリヨウ 興福寺領 三代實録元慶七年十二月廿五日の條に、『越前國田地百十二町二百九十一歩。加賀國田地二百十六町。依て天平勝寶元年四月一日詔旨返興福寺。』とあり、その天平勝寶元年の詔といふものは、陸奥國より黄金を買した時、諸寺に墾田を寄進することを宣うたことに係る。しかし加賀の興福寺領が何れにあつたかは知られぬ。

コウフヨウリヤク 公證要略 二卷。文化十四年並齋湯淺祇庸著。前田氏に關する諸事を記したもので、上卷には三州國郡來因略・金澤御城來因略・三城來因略・御當代様御事略・御誕辰御家督年代・御官位年代・御封國年代・御軍役年代・御轉城年代・三郡御屋敷由來略・兩御末家并七日市侯御事略・御同姓事略・御連枝之家々・御家門之家々・御續書、下卷には毎月諸殺生不仕日・御祥月迄殺生不仕分御歷代様并御實母様御位牌所・御廟所・御歷代様御戒名・御子様方御戒名・御實母様方御戒名・御末家様御戒名が載せられてゐる。

コウヘイ 合平 鳳至郡鶴上内の小字。

コウボウイハ 弘法岩 江沼郡上福田に在る。江沼志稿に、上福田領アラハヶ谷にあると記してゐる。

コウミヨウ 幸明 石川郡中興郷に屬する部落。白山宮莊嚴講中記録正中二年四月四日の條に見える光明寺三郎はこの地の住人なるべく、幸明は光明寺の轉訛であらう。

コウミヨウイン 浩妙院 加賀藩主第三代前田利常の女龜鶴姫の法號。詳しくは浩妙院天聰日眞大姉。

コウミヨウイン 光明院 珠洲郡上に在つて、眞言宗に屬する。能登名跡志に、『此村に光明院といふよき密寺あり。和漢三才圖會に、光明院は能登の谷村に有りとは、外に光明院なし、書誤りにや。』と見える。寺藏に木造胎藏界大日如來座像高九八櫃のものがあつて、鎌倉初期の作、絹本着色十二天圖十二幅各壁九九櫃・横三九櫃のものは鎌倉時代の作、絹本着色釋迦三尊圖壁一米二〇櫃・横五四櫃は室町初期の作、絹本着色佛涅槃圖壁一米一